終の世界に
君とふたり
成人向

2021 Julius×Subaru
Re:0 Unofficial Fanbook #6

2021 Julius×Subaru
Re:0 Unofficial Fanbook #6

始まりは
どこから
だっただろう

——君が
好きだ
スバル

…すまない…

きっとこれは
罰なんだ

…っはぁ
あ…っん…
あッ…

あッ

あッ♡
きもちぃっ♡

すきっ
すきぃッッ♡
ユリウスっ♡♡

ぬぢッ
ぬるる
ぬちゃ
くちッ
くちッ
はぁっ♡
はッ♡

ユリウスっ
ゆりうしゅぅッ♡

はッ♡
はへッ♡

もっとッ♡
もっとぉ♡

もっと…っ♡
ユリウスの…っ♡

はぁっ♡

あ…♡はぁ♡

あっ♡ん♡

ユリウスっ

もっ…

イきそ…っ

んっ…

んふぅ…♡

んぅ…ッ♡

ぐぅ♡

はっ…♡

あ…♡はぁ♡

はぁっ♡

みくぅ…♡

はぁ…♡

はぁ…っ♡

はぁ♡

へへっ…

ユリウス好き…っ♡ だいすきっ…♡

誰よりも…っ お前のことが…っ

——これは罰なんだ

——…ああ…

キャアアアア

…スバル？

スバル どうしたんだ こんな雨の中――

濡れてしまうから屋敷の中に入って――……

…スバ…

――ユリウス あのときの答え……

伝えに、きた…

――っ！

ポフ…

——スバル
雨に濡れて身体が冷えてしまっただろう今風呂の準備をしているから
風邪をひいてしまう前に拭いて——
ガミッ
ボフッ…
…っスバ…
いいから今すぐ抱いて…
……お前が温めて…

ふ…ぁっ
ん…ふっ
ちゅっ
ちゅ
ちゅっ
ちゅく
んっ
んぁ…ふ…っ
んっ…
ふっ
スバ…っ
んッ…
好き
好きだよユリウス
…我慢しなくていいから
ジー…
する…
な？…触って…
スバル…っ
はッ…
はッ
はッ

んっ…
ぁッ
ぴくっ
すばる…
はッ
あんっ…
ぁ…っ
すばる…っ
ぴくっ
はッ
ぬるっ
ぬちゃッ
あッ
あッ
ぬるッ
あはッ
ぬちッ
ユリウスぅ…♡
もっ…
ちんこだけじゃ
なくってぇ…♡
はぁっ
はぁっ
はっ
俺の中ぁ…♡
はやく…
挿入れて…っ♡
すりっ
すりっ
ぐぢッ
ズンッ

——スバルの身に何かがあったのは明白だった

スバル…っすばるっ

だけど何も聞けなかった

ゆりうすっ♡もっとぉ♡

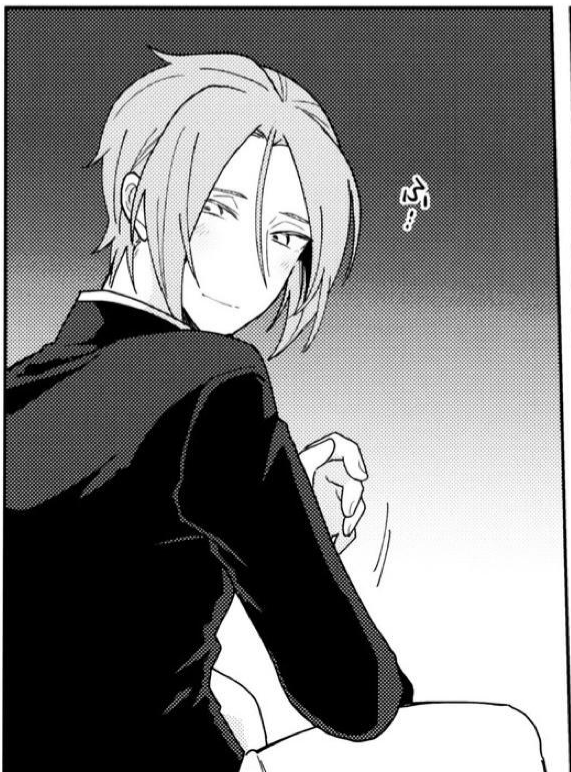
もっとして…っ♡

…聞かなかった

想い人からの
熱烈なまでの
誘いに
目先の欲に
負けてしまった
きもちいぃ
否
彼を望み通り
抱いてやれば
彼の心は安らぐと
そう心に
言い訳をして
ドチュッ
ビュルルルッ
ドプッ
それが
間違いで
あったとも
知らずに

すぅ…

すぅ…



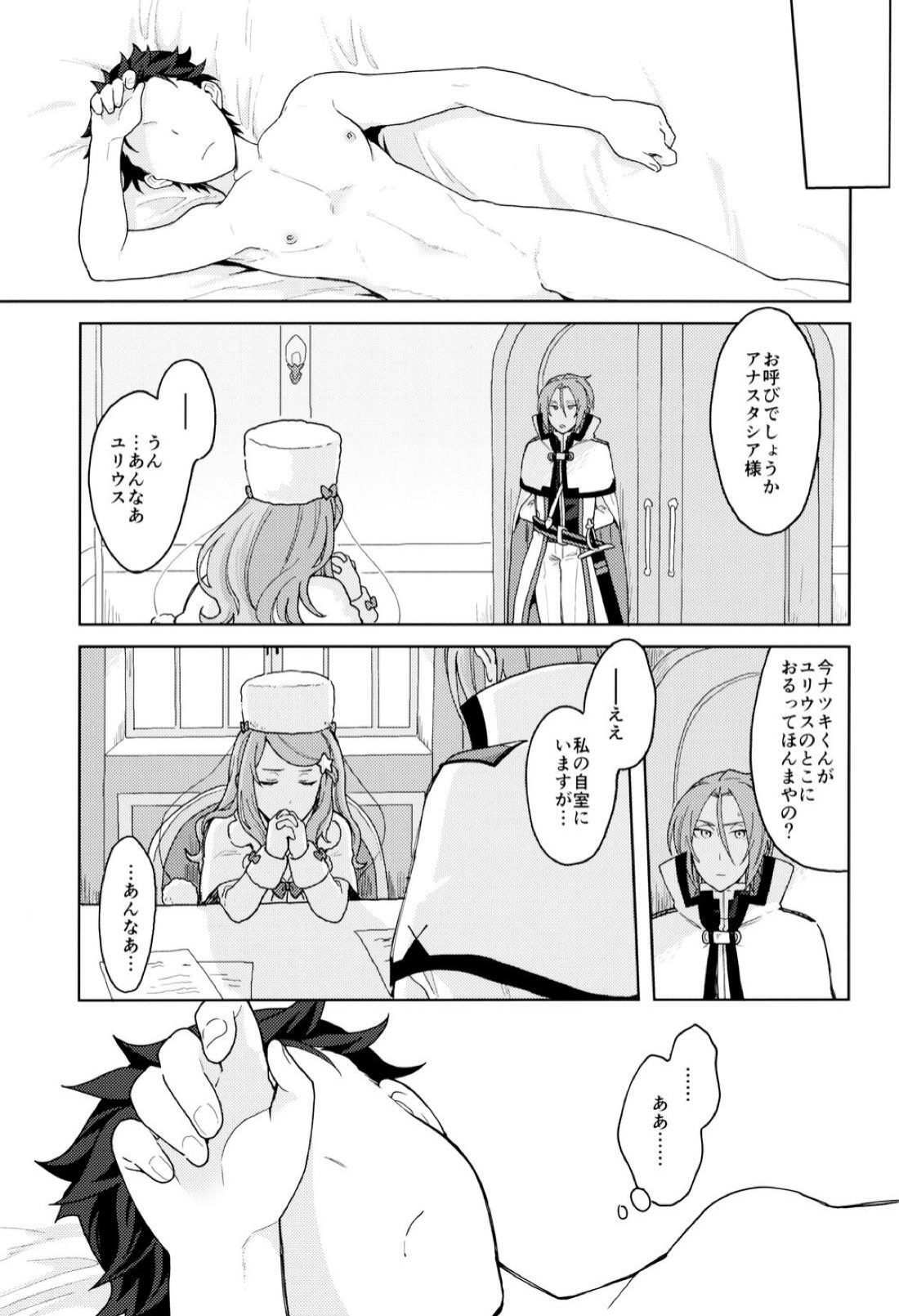
……
スバルは何故……
ちか
ちかっ
イア？
どうかしたのか？
……アナスタシア様が？
……
——呼び出しだろ？
起こしてしまったか
どうやら何かあったようなんだ
すまないが君の屋敷の近くまで送るから——
……いや
俺はここで待ってるよ

——いいのか？
エミリア様や
ベアトリス様が
待っているのだろう？

……
いいんだ

もっと…
お前と
いたいから

——……
すぐ、戻る


お呼びでしょうか アナスタシア様
うん …あんなあ ユリウス
今ナツキくんが ユリウスのとこに おるってほんまやの？
——ええ 私の自室に いますが…
…あんなあ…
……
ああ……

エミリアさん
とこの陣営が
何者かに襲撃を
受けて全滅した
そうなんよ

俺は
最低だな…

始まりは
どこから
だったろう

君が
好きだ
スバル

…は？

…すまない

突然このようなことを告げられてさぞ気持ちが悪いだろう
いや…気持ち悪いっつーか…

君に想いを打ち明けたからといって君と恋仲になりたいなどとは思っていないさ
ましてや嫌がる君を無理矢理襲うということも決して行ったりはしない
ただ――…私が君を想っている…それだけは知っていてほしくなった…
だから…すまない…卑怯な私をどうか許してほしい…それだけだ…

ザァァァァ

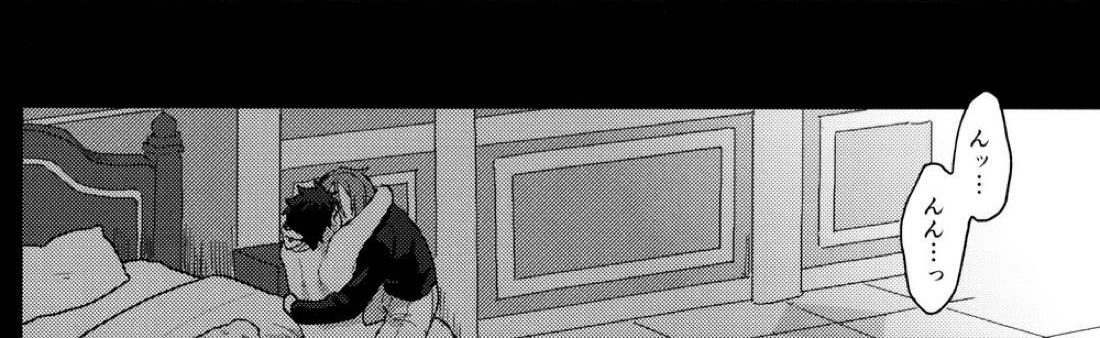
——スバル？どうしたんだこんな雨の中——

——ッ

お前なあ!!あんなこと言われてまともでいられるかってんだよ!!

俺だって…ッお前のことずっと好きだったのに…っ

勝手に話終わらせてんじゃね——!!



ああ…スバル…夢のようだ

んっ…んぅ…♡

ちゅっ

ちゅく

ふっ♡

ちゅっ

ちゅっ

あ♡

っお前よくそんな恥ずかしいこと平気で言えるよな…っ

んッ

ぐいっ

ぷはっ…はぁ…♡

とろん…♡

ぷくっ

ぷくっ

あ…♡

ああ…スバル口付けだけでこんなになってしまって…

すりすり

ぷくっ

ぷくっ

ひゃ…っ♡

ああッ
ほらスバル刺激するたびに先走りが溢れてきている
ぐりっ
ぐりっ
ぁんっ
ああ可愛らしいよスバル…♡
ビクッ
ビクッ
はぁっ
はッ♡
にちゃっ
ちゅこっ
ちゅこっ
ちゅこっ
ちゅうっ
ビクッ
ビクッ
やッ…♡
やだぁ…っ♡
ひゃっ…♡あ
ふふ
どこに触れても敏感に反応するね
はっ…
幻滅したかよっ…
はっ
はぁっ
まさか
んっ♡
ずっと夢想していたよ
はふ…♡
君にどう触れればどう反応してくれるのか…
ぐりっ
ビクッ
あっ…

どこを
どう刺激すれば
甘い声をあげて
くれるのか…
すり
すり…
優しく
触れられるのが
好きなのか…
くりっ…
ぴくっ
っ…♡
んッ…♡
ぴくんっ
それとも
強くされた方が
好いのか…
ぎゅうっ
くりッ
んひぃッ♡
びくッ
君の頭から
爪先まで
余すところなく
想像していたよ
はーっ
はー♡
あ…♡
はっ♡
はっ♡
…想像よりも
数倍敏感だった
ようだがね
ぴくっ
ぴくっ
へっ…
俺とどうこう
なるつもりは
ないって言った
くせに…っ
そんなこと考えて
やがったのかよ
このムッツリスケベ…♡
はッ
はッ
はッ
想うだけならば
自由だからね
?…
う…
だが君が
そんな私を
解き放ったんだ
覚悟
したまえよ
スバル…♡
…っ♡

ぐぽッ
ぐぽッ
ぐぽッ
ぐぽッ
はッ…
スバル…っ
好きだよ…っ
はっ
はっ
はっ
はッ
ビクッ
ビクッ
ずっと君と
こうしたかった…っ
ぬる
ちゅ
ちゅる
んふぅ♡
あぁ♡
あぁ♡
ぷはっ
すきっ
ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ
おれもっ
好きぃっ♡
ゆりうすぅ♡
っああ…ッ
スバル…っ♡
君の口から
その言葉が
聞ける日が
来るなんて…♡
ぐぃ
ぐぃ
ぐぃ
はーっ
はっ
ユリウスっ…♡
ユリウスぅ…っ♡
ぎゅうう

あぁッ あぁッ
奥ッ きもちいッ
ぐぽッ ぐぽッ
ぬちゅッ ずぷッ
はぁ… スベル…
ぬちゅッ
ぬちゅッ
ずちゅッ
ちゅぅぅ
ちゅぅぅ
んっ…
んふ…
はー
はッ
あぁッ イクっ
イクッ
んぅ
んぅ
ビュルルッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ドプッ
あ…
あは…
ビュー…
ビュル…
ギュうぅっ
んぅ…
んー…っ
ビク
ビク
ビクッ
んぅー…っ
っ…

身体の調子はどうかな？スバル

最悪 腰は痛いし尻はじんじんするしもう動けない

浮かれて盛りすぎだろこのド変態ドスケベ騎士

これでも加減したつもりなのだが…次からは負担を減らすよう善処しよう

あれで加減してたの!?

だがとても幸福なひとときだったよ

ありがとうスバル

ん…

ちか
ちかっ
っ…イア？どうかしたのか？
ぱッ
〜ッ
——すまないアナスタシア様から呼び出しのようだ
急ですまないが君はここで休んでいるといい
ヘーヘー最優様はお忙しいようで〜
じゃお言葉に甘えて…
スバル
イッ
…ッ
すぐ戻る

バタン…

キザ…

…

本当にヤっちゃったんだな…俺…

ユリウスと絶対に叶わないと思ってたのに…

へへ…

……ル

スバル…

スバル…

スバル…っ目を覚ましてくれ…っ

ん…？

んあ…俺あのまま寝ちゃって…

つーか帰って来たのかよ

……っ

どったの？なんかあったのかよ？

――っ

…落ち着いてよく聞いてくれ

エミリア様達の陣営が何者かに襲撃を受け皆亡くなられたと――…

スバル!!

嘘だ
嘘だ

なんで
よりにもよって
このタイミングで

これじゃ
まるで

まるでユリウスと
結ばれたことを
咎められているようで

だけど
あいつの元へ
行くのが少し
遅れるだけだ

今は俺のいない間に
一体何があったのか
そしてそれを
防ぎ皆を救う

スバル！

どうかしたの？

いや
なんでもないよ
エミリアたん

俺はあいつ
だけじゃない
ここにいる
皆のことだって
大切で守りたいと
思っているのだから

なのに
なんで

なんで

なんで
何度繰り返しても
ダメなんだよ

何度も

何度も
何度も

何度も

俺は誰も
救えないのか

俺は誰とも
一緒にいることを
許してもらえないのか

ス…
バル…

べ…
アトリス…
スバル…
生きて…
逃げるかしら…

なんで…っ
お前を…っ
皆を置いて
なんか…っ！
ベティーは…
見た…かしら…
スバルが
この前ユリウスに
想いを告げられて
いたところを…
——…っ

ベティーは
腹が立ったのよ…
スバルは
ベティーのスバル
なのに…
でも…
スバルも
あいつを
想っているの…
知ってるから…
だから…
スバルは
このまま逃げて
あいつのところで
幸せになるのよ

……

そんなこと…

できるわけないだろ

できるわけないのに

スバル！

どうかしたの？

——…

ううん なんでもないよ エミリアたん

何度も何度も繰り返すたび

——スバル

思い出すのはあいつのことばかりだった

エミリアの体温が
失われていくのを
感じながら

思い出すのは
あいつの
ぬくもりばかり

——ずっと
夢想していたよ

君にどう触れれば
どう反応してくれるのか

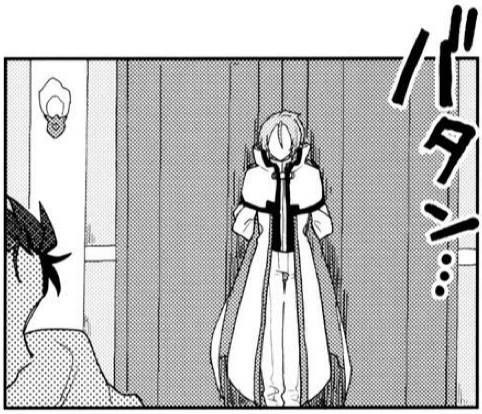
俺も考えてたよ
お前の体温
お前の感触
お前の声
お前の匂い

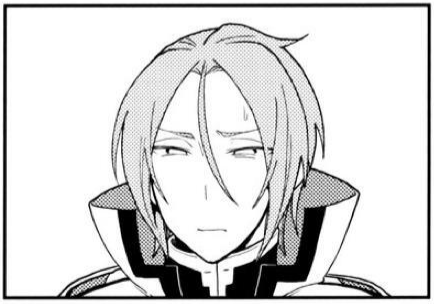
なのに
届かないんだ
どうしても

——なあ
どうすれば
いいんだ
教えてくれよ
ユリウス

——そうしてまた死に戻りをして
はあっ
はあっ
はッ
はッ
はッ
…スバル？
あの時のように無我夢中で走り出し気が付いた頃には

エミリア達を諦め欲に走った自分の姿があった





知って…
いたのか…
——最低だろ
俺
エミリアの
騎士なのに
襲撃が
来ることも
わかってたのに
戦いもしなかった
…逃げたんだよ
俺なら皆を
助けられるのに…っ
なのに俺…っ
なんで…っ
違うんだっ
気付いたら
ここにいて…っ
俺…っ
——ッ
スバルっ

大丈夫だ…スバル

君は何も悪くはない

違う

過去を悔やんでも過ぎた日々は戻りはしない

君は今こうして生きているのだから

違うんだ

全部悪いのは俺なんだよ

今ならまだ皆を救いに行くことができるのに

俺はそれをせずただ己の欲の為に未だにこうしてのうのうと生きてるんだよ

もういいだろう

充分満たされただろう？

早く死に戻って皆を救って

そして今度こそ……

——でもまた失敗したら？

スバル

こんなことを言うのは卑怯かもしれないが——

すりっ

君が生きて私を頼ってくれたことを私は嬉しく思っているよ

だから――君はどうか彼女達の分まで生きてくれ…っスバル…っ

私が君を守ってみせる…だから…どうか…ッ

――せめて

せめて打開する術が見つけられるまではいいんじゃないか？

でもその間にセーブポイントが更新されて取り戻せなくなったら？

…でも

……

…でも

でも…

……じゃあ証明してくれよ

くりっ

…スバルっ

ぴくっ

せめてあと少しくらいなら――

全滅…ですか
正確にはナツキくんを除いてやね
屋敷におった人らは一人残らず全員無惨な姿で発見されたそうなんや
それで今ナツキくんが何や知っとるんやないかって捜索しとるとこなんよ
スバルは昨夜私と共にいました
ですから襲撃のことは何も知らないはずですのでこのまま当家で保護させていただきたく…

――そういうことやないんよユリウス
わかっていますアナスタシア様
はぁっ
それでも…
あぁ♡はぁ♡
――っん
んっ…ふ…
ちゅる
ちゅっ
んんっ
れろっ
んっ♡
ちゅっ
ちゅっ
んぅ♡
ぷはっ
よそ見しないで俺だけ見ろよぉ…っ
はーっ
はーっ
証明しろって…言っただろぉ…っ

ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぴくっ
ぴくっ
んッ…
んっ♡
ぴくっ
ぴくっ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
んぁ…♡
はふ…っ♡
ゆりうしゅっ
ゆりうしゅうっ♡
はッ
はッ
れりゅ
れりゅ
ゆりうひゅぅ♡
はッ
はッ
ぬりゅ
ぬりゅ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぐーりゅッ
ひゃぁ
あぁ♡
ナツキくんが関与してもしてなくても
ナツキくんがユリウスのとこに向かっただのを目撃されたことで今回の襲撃にうちが関与してるって噂する人らも出てくるかもしれないんよ

んひぃ♡
んぅう〜♡
ゴュルルル
ビクンッ
んッ…♡
んぅ…♡
ビク
あっ…♡
はぁ…っ♡
はへ…♡

そうなる前にナツキくんはどこか遠くに逃がすしかないんよ
はっ…
スバル…っ
スバル…っ
うちらとは関わりのないとこで生活してもらうしか…

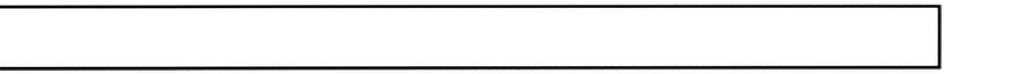
スバル…っっ
ぐぐぐ…
ビクンッ
——ッッ♡
あぁッ♡まッ♡まってぇ♡
イったばっか♡だからぁ♡
ごちゅッ
ごちゅッ
ごちゅッ
ごちゅッ
ごちゅッ
ごちゅッ
ガク
ガク
ガク
ガク
ガク
ビク
ビク
ぁあぁ♡
スバル…っ
好きだ…っ
スバル……っ
おぅッ♡
はひぃ♡

わかっている
わかっているというのに
スバル…っ
スバル…っっ
あぁ♡
はっあ♡
ビク
ビク
ぬちゃッ
ぬちゃッ
ぬちゃッ
ぬちゃッ
ぬちゃッ
ぬちゃッ
ようやく手に入れたこのぬくもりを手放したくはない
スバル…っ君を誰よりも愛している…っ
はぁ…♡
ひぁ…っ♡
れろ
ぴちゃ
ぴくっ♡
決して君を一人にはしない…っ
は…
あ…♡
くちゃ
そこぐぐッ
はぁ♡
ビク
ビク
ビクッ
ビクッ
私と共にいてくれ……ッッ！
んぅう♡
ッッ♡
ビルルルルッ
ビュクッ
ふ…ッ
う…ッ

ビュ〜〜〜ッ
ビクッ
ぎゅうううう…ッ♥
ビクッ
ビクッ
あッ…♥
あはっ♥
ビクンッ
はへッ…♥

はッ…♡
はひッ…♡♡
ずっと…っっ♡
いっしょにぃ…♡♡
はーっ♥
はーっ♥
はぁあ〜〜♥
はーっ♥

たとえそれが主の意向に反する行いだとしても
はッ…
はッ



いなくなった？

ええ…屋敷で保護していたはずが…

昨日帰宅したときには既にもぬけの殻となっていました

近衛騎士団にも伝え捜索するしかなく――…不甲斐ありません…

申し訳ございません

アナスタシア様

コツ…コツ…

ギィ…

ただいまスバル

！
ぱっ
ユリウスっ
おかえりユリウス
にこっ
いい子にしていたかい？
ん……♡
すまないねこのような場所に閉じ込めて
いいよ別に
屋敷の地下ならば私以外誰も来ない
万が一見つかったとしても彼を幽閉しているように見え結託しているようには見えないはずだ
……
なあ…ユリウス…♡
ああいい子で留守番が出来た褒美をやらねばね
……♡

れるれるっ
ぴちゃぴちゃくちゃ
ふーっ
ぢゅぽっぢゅぽっ
ちゃるるっぢゅぽっ
ふーっ
んッ…♡
んぅ…ふ…♡

くちゃくちゃ
めちゃっ
んッ♡
随分と柔らかいが私のいない間にいじっていたのかい？

ぷはッ
はーっ
だ…だって…っ
お前のいない間寂しくて…っ
ぴくっ
ぴくっぴくっ
はーっ

めちゃくちゃ
めちゃくちゃ
くちゃ
ほう？
ビクッビクッビクッ
んぅ…っ
でッ…でもぉ…ッ♡

ユリウスにイかされたい…から…
イって…ない…

――ッ
可愛らしいことを
言ってくれるね…ッッ
では
待たせた分
よく味わって
くれたまえ…っ
ビクンッ
ぴゅるるッ
はへっ
あー…
はー…っ
は…
はぁ…
はぁ～っ
はっあ
はぁ…
ぐら…っ

さあスバル これからが 本番だろう？

ああ 声を我慢 しないでくれ スバル

私によく 聞かせて ごらん

地下で音が 響くが外に 漏れることはない

私にしか 聞こえないよ

君の声は 私にしか 届かない

君には もはや 私しかいない

出会った瞬間から 既に手に入らぬ 存在だと諦めていた 彼がここにいる

まったくそんなに蕩けきってしまって…
…とても愛らしいよスバル
ぬりゅ
ぐちゅっ
びくっ
びくっ
ぴくっ
ぴくっ
はへ…
あー…
はうぅ…
ぬちゃッ
ぐりぐりっ
ぐりぐりっ
ぴくんっ
ほらこうして入り口を攻められるの好きだろう？
あ
あ
しゃきッ
ぐりぐりっ
ぴくっ
はーっ
ぴくっ
はーっ
はーっ
すきッ
ぐちゅぐちゅ
ぐりゅッ
では奥を突かれるのはどうかな？
ビクッ
ビクッ
おぐ
おぐ
ぐぐぐ
ゆりうしゃにされること
ぜんぶ
きもちいいッ
ビクッ
ビクッ
ゆりうしゃなら
なんでもッ
ぴくっ
ゆりうしゃがッ
しゃきっかりぃ
あ
あ
ビクッ
はッ
はッ
はッ

多くの者に向けていた彼の笑顔が愛おしかった

だが私以外の全てを失くし快楽に溺れ善がり狂う表情はあの頃とは見る影もなく

あぇッ♡ はぁあ♡

あ♡ はぐッ♡ あ〜♡

…美しい

んぅ♡ んふぅ♡

ぐちゅ ぐちゅ ぐちゅ

——ああ私はなんと最低な男なのだろう

最優の騎士が聞いて呆れる

射精すぞ……ッ受け止めてくれ……ッスバル……ッッ

ドピュッ

ドプッ

どくどくっ

はぁあ〜♡

ガク

ガク

ガク

ガク

ぴちゃ

ぱたたっ

ゆりうしゃのせーしっ♡しゃきっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

きもちいいっ♡

しゃきッッ♡

もっとぉ♡

あ〜ッ♡

あ〜ッ♡

あ…スバル…っ

スバルには私しかいないなどと

ユリウス
スバルの件…聞いたよ

僕も例の襲撃事件にスバルが関与してるとして捜索に駆りだされることになったよ

でも僕はスバルがエミリア様を裏切るなんてありえないことだってわかってる
それに本当は君がスバルを匿ってることも――

ラインハルト

これはスバル自身が決めたことなんだ

これ以上は…すまないが踏み込まないでほしい……

ユリウス！君一人が抱え込まなくとも僕達でスバルを助けることだって出来るはずだ！

ユリウス！

そんなことはわかっている

ふッ…♡
んんッ…♡
んぅ…ふ♡

ぢゅぽっ
ぢゅぽぽっ
ずちゅっ
ずじゅるるっ

ぷはっ
…ユリウス？
——ああ すまないねスバル
ぴくんっ
ん…♡
熱心に舐める君が愛おしくて見惚れてしまっていたよ
…っ♡
大分上手になったねスバル…♡ いい子だ
すりすり…
ぐぐぐぐっ
んんっ♡ ふぁ…っ♡
ぐぽぐぽぐぽっ
ぐぽぐぽぐぽっ
んっ♡
ぐぽぐぽぐぽっ
もじ
もじっ
ふっ♡ ふふっ♡
すりすりっ
ぐちゅるっ
じわぁ…っ
ぐちゅるっ ちゅっ
きゅうう…っ
んっ♡

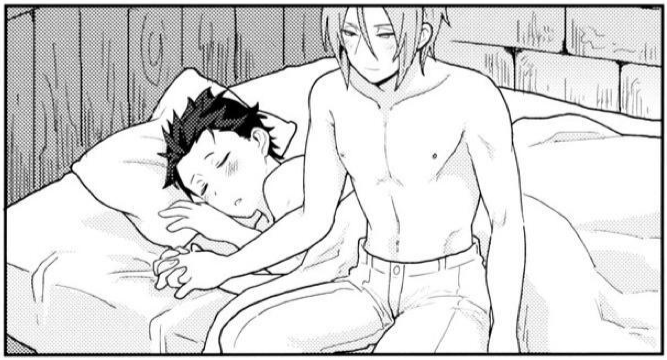
ビクッ
ビクッ
ぴゅるるる
ぐぽぐぽ
ぢゅるるる
ぢゅぷぷ
ビクッ
ビクッ
ぷっ
ふーっ
ふーっ
ちゅるんっ
ちゅるんっ
あ…♡
は…♡
はぁっ♡
ぴくっ
ぴくっ
ぴくんっ♡
スバル
今ので達してしまったのか？
…♡
随分といやらしい身体になってしまったものだね…♡
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぐしっ
…っ
お前のせいなんだからな…っ
責任とれよ…♡

当然だ
君を満たしてやれるのはこの私だけなのだからね

君はただ私に身を委ね私からの愛を受け止め快楽を得ていれば良い

は…
はひ…♡

彼は私だけを必要としている



——これで本当に良かったのだろうか

すー

すぅ

そう何度も彼の寝顔を見つめる度に思う

ん…

…ゆりうす…

きっと何もかも間違っているのだろうね

それでも君を手放せない私をどうか許してほしい

んッ…
ぴちゃ
ちゅ
んぅ♡
れろぺろっ
くちゅっ
…すまない そろそろ 行かなくては
えっ…
ん…
そうだよな… お前は最優の 騎士だもんな…
じゃまたお前が 持ってきてくれた 本でも読んで 待ってるわ
…まだ ほとんど 読めねーけど
スバル…
〜…ッ
では君が 退屈しない ように趣向を 凝らしてみようか
えっ？

…最優の騎士とも
あろう者が職務を
煩わしく感じる日が
来ようとはな…

コツ
コツ
コツ

あ
に

兄様！

お、おはよう
ございますっ

ああ
おはよう
ヨシュア

その、昨晩は
どちらに
いらしてたん
ですか？

自室にも
戻られて
いなかった
ようですが…

ああ少し
調べたいことが
あってね

……

ですが…その…
ここのところ
毎日では
ないですか？

あっ
いえそのっ

兄様が勉学に
熱心になられるのは
とても素晴らしい
ことなのですが…っ

すみません…
兄様がまともに
お休みになられて
いないのではと
心配で…

それに…
先日あんなことが
あったばかりですから…

一部では
王選候補者の誰かの
仕業ではないかとも
言われていて…

アナスタシア様の
ことも…悪く言う
人々がいて…

兄様だって
その件で
酷くお疲れの
はずですのに…

ナツキさんも
どこでどうして
いるのか……
皆の前で本当のことを
言ってくれさえ
すれば僕たちだって
こんな……ッッ

ヨシュア

心配をかけてしまって
すまなかったね

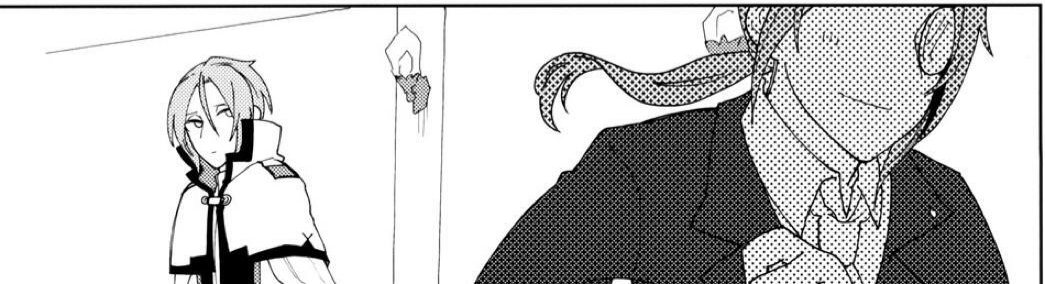
私はこの通り
なんともないよ

それに彼だって
きっと何か
事情があるのだろう

私達は私達で
これまで通り
正しく在れば良い

だから君も
君の職務を
全うするんだ

…はいっ！



ああ…本当に煩わしい…

せっかく今夜は特別な夜になるというのに

早く夜が訪れてくれれば良いのに

一体いつから私は彼以外の者にこんなにも薄情になってしまったのだろう

それでも私は…

ガチャン

ただいまスバル

ん…

……ッ♡

ん♡

ふぅ…っ♡

ふ――ッ♡

ッ――

ッ――

ッ――

ガク

ガク

ガク

ガク

ガク

ああ すまない
これでは 会話が 出来ないな
ぶーん ぶーん
ふーっ
ふーっ
ぶはッ
おッッまえ なぁ！
はーっ
ぜはーっ
はーっ
ぜはーっ
バカだろぉお♡♡
むしろ前より 地獄みてえ だったわ！

ふむ… お気に召さ なかったかな？
ぬぽぉ
あっ
当たり前だ!!

だって…俺もう お前とじゃないと 満足できないし ……
はーっ
はーっ
はーっ
ずっとユリウスのこと しか考えられなくて 気ィ狂いそうだったし…
も、もう いいからさっさと シたいんですけど！
ポス…

何!? どったの!?

……君が……

改めて好きだと…愛おしいと…そう思って…

…なあユリウス

もっかい縛ってくんね？

お前に酷くされたい気分かも…♡

なんか今日はさ

自分の心がどんどんと蝕まれていく感覚がする
正しく在れば良いなどどの口が言うのか

間違っていることに
気付いていながら
何故いつまでも
こうしているの
だろうね

しかしまだ
課題は山積み
だな…

彼に寂しい
思いをさせない
ためには……

ああ
楽しみが
尽きないな

くくっ…

ナツキスバル？
ああ
あの主を
裏切ったって
いう…

違えよ！
こいつだけまだ遺体が
見つかってないって
だけだろ？

いやだから
裏切って
逃げたんじゃ
ねえの？

それにしても
ルグニカの
英雄とか
言われてたのにさ

俺は信じて
なかったけどな

半魔なんかの
騎士名乗ってさあ

そこの君達
往来の場でそういった話題は感心しないな
！
あ…
ああへへっすいません
すいませ～ん騎士様～
あいつ最優の…
ナツキスバルがあいつのとこ逃げたって話らしいぜ
本当かよったく～…
おまたせユリウス
アナスタシア様
ほな行こか

今の人ら随分なこと言っとったなあ

…聞こえていたのですか

商人の耳の良さ舐めたらあかんよ

…でもあの人らだけやない

あの時言ったことが見事に的中してもうたなあ

…なあユリウス

ユリウスは今誰の騎士なん？

…エミリア…

皆…

ごめん…

なさ…

ごめ…

スバル

スバル

ん…

んぅ…

むぐ…

おはよう

スバル

んあ…おかえりユリウス
魘されていたようだが悪夢でも見ていたのか？
…
忘れた
スバル…
なぁ…
それよりも…な…♡
お前がいたら悪夢なんかぶっ飛ばせるからさぁ…♡
な…♡
ユリウス…♡
すりすり♥

その前に君に伝えたいことがあるんだスバル

？

今日まで私は君に対して不誠実だった

君は私一人を選んでくれたというのに

君を一人暗い地下に閉じ込め不安にさせてしまっていた

だからスバル

国を出て何処か遠くで共に暮らさないか

……いいのか？だってお前…

家のこととか…王選…とか…

——もういいんだ…

——うん
お前とならどこまでも
ああ
俺がこいつを壊してしまった
結局俺はどこにいても誰かを不幸にすることしか出来ないんだな
ん…っ♡
ふぁ…♡
くちゅ
くちゅ
れーろ
んぅ…
ふ…♡
んっ♡
ちゅ
ちゅぽ
ぢゅるる
ぢゅる♡
ん…っ♡

あと少しだけなんて考えるフリしてすべて後回し

ぢゅぷっ

ぢゅぷっ

ぢゅぷっ

ぢゅぷっ

目先の欲に溺れて大事な奴まで穢して壊して

ぢゅぷっ

ぢゅぷっ

ぢゅぷっ

ぢゅぷっ

狂い出した始まりはどこからだっただろう

私が彼に想いを告げてしまったあの日から？

俺が同じ気持ちだと告げて結ばれたあの時から？

それとも死に戻った後にこいつの元へ逃げてしまったあの瞬間から？

彼を独占しようと欲に走った時から？

ひくっ…

ひくっ…♡

ちかっ

ちかっ

ふーっ♡

ふーっ♡

ビクン

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

——本当はわかってたんだ

はぁ…♡ はぁ…♡
すりっ
本当は屋敷にいる人だけじゃ足りないって
誰かに……ユリウスに助けて欲しかったんじゃないかって
ああスバル…♡ メスイキしてしまったのか？
彼を望み通り抱いてやれば安らぐなどと言い訳をして
なにもかも間違っていることに気付いていながら彼を抱く手は止まらず
ビクッ
ズンッ
ビクッ
いけない子だね…♡
ぷしゅっ
ぶしゅっ
あぁ♡ やらぁ♡
はぁ♡
やらぁ♡
ぬぷぷっ
エミリア様の為に奔走する彼が愛おしかったのに
はぁ…スバル…
スバルっ
わるくない
はぁっ
清く正しく騎士の中の騎士であったこいつがムカつくほどに好きだったのに
ビュルルルーッ
ドプッ
ビクッ…
でももう遅い

こんなにも罪深い自分などもっと壊れてしまえばいい
もっと
もっともっと
なにもかもすべて

はっ…
はっ…
はっ…
はっ…
もっとぉ…♡

…ここが例の目標が暮らしてる家か

ああ

ああどうか
この手を
止めて欲しい

どうか今度こそ
皆を救いに行く
勇気をください

一人はあの時の
生き残りだ

今度こそ
息の根を止めるんだ
油断するなよ

どうか

私を
俺を
罰して

あとがき

後悔、罪悪感、緊張感、背徳感はこの上ない快楽のスパイス（深夜3時のテンション）

この話は元々二人に恋愛感情がなく性描写も一切ない話として描いてたんですけど、
そうするとスバルくんが大切な人を取りこぼした世界で生き続ける理由がなくて、
色々考えてやっぱすけべしないと成り立たないょ…って思って、
もっと言うと本当は最後スバルくんに自分で決断して
自分で死に戻らせようとしてたんだけど、
今度は何も知らないユリウスがそれを良しとしないな、
あいつ皆の分まで生きることこそが正しいって強要してきそうだよなとか色々あって
結局襲撃者に殺しに来てもらいました。このユリウスは墜ちて油断しきってるので
スバルくんは絶対に守れません。スバルくんは強制的に死に戻る。罰。死は救済。

ちなみに襲撃者についての諸々は一切考えてないので各々で補完してください。
ここから死に戻る先も前と同じか更新されるかとかも決めてないです。各々でお願いします。

そういえばセーブ地点がスバルくんの自室なのは
死に戻った先に目の前にエミリアとかがいたら
スバルくんに逃げるという選択肢が生まれなくなっちゃうからです。
ベア子に逃げろって言わせたのも同様にエミリアが同じこと言ったら
スバルくんは諦めなくなるからです。これは絶対です。
余談ですけどベア子のとこ描いてるときにちょうどアニメで
俺を選べ回放送してて情緒が死んでました。ひどい。

そういうわけであくまでもユリスバがこういうシチュエーションでセックスに
明け暮れてほしいというそういうただの性癖的なアレだけのエロ漫画です。
エロ漫画なんてそんなもんやろがい！

友人、家族、主とかユリウスの親しい人と関係が壊れてく描写を入れたのは
僕がホワイトアルバム2のかずさルートが好きだからです。（隙あらばエロゲの話するオタク）
周りとの関係を壊してでも好きな人を取るとか
ユリウスは絶対そんなことしないって思うけどでもしてほしい。
というかユリスバってなんか背徳的なことさせるのめっちゃ似合いません？
頭の中で2人は絶対そんなことしない。って
わかってても倫理感ぶっこわれたことしてほしい。狂う。
ユリスバ、これ以上俺を狂わせるな。これ以上分厚い本を描かせるな。マジで。

感想フォームをつくってみました。
よろしければ感想ください。→

終の世界に君とふたり
2021/6/11　発行
印刷:サングループ
うさごりらくん/ゆいこ

twitter:@_GORILLAND_
pixiv:1682174
mail:usagorillakun@gmail.com

web無断転載、違法アップロード
ネットオークション、フリマアプリ等への出品
一切禁止